

平成 29 年度

ホームヘルプの質を高める研修会

開催要綱

1. 趣 旨

平成 30 年度以降の地域包括ケアシステムの深化・推進において、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、利用者の生活に寄りそって支援を行うホームヘルプサービスは、在宅生活を支える要として役割を発揮することが期待されます。

特に、利用者の自立支援においては、日常の支援をとおして利用者の状態の変化を把握する生活援助と身体介護の総合的な提供による支援が重要となります。

本研修会は、ホームヘルプサービスをめぐる政策動向について学ぶとともに、自立支援における生活援助の役割やホームヘルパーの専門性を学ぶことにより、ホームヘルプサービスの質の向上に資することを目的に開催するものです。

2. 主 催

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 全国ホームヘルパー協議会

3. 期 日

平成 30 年 1 月 10 日(水)～11 日(木)

4. 会 場

**全国社会福祉協議会 5 階 第3～5会議室
(〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル 5 階)**

5. 参加対象

ホームヘルプサービス事業関係者(サービス提供責任者、管理者等)

6. 定 員

100 名(先着順)

7. 参加費

全国ホームヘルパー協議会会員 7,000 円 会員外 10,000 円

8. 情報交換会

1,000 円 (10 日 / 希望者のみ)

9. 内 容

◆1日目 1月10日(水)13:30~17:30

- 12:30 受付開始
13:30 開会・オリエンテーション・挨拶
13:40~14:40 行政説明
「介護保険制度の動向とホームヘルプサービスへの期待」
厚生労働省 老健局 振興課
14:40~15:00 休憩
15:00~17:30 シンポジウム
「自立支援における生活援助の役割
～住み慣れた地域での暮らしを支えるために」

現在、介護給付費分科会において、生活援助を中心とするサービス提供について、基準の緩和とそれに合わせた報酬設定が検討されています。

しかし、生活援助は、その行為をとおして利用者の状態を観察していたり、身体介護との一体的な提供による総合的な支援が重要であり、それぞれを分けて提供することで利用者の状態像が把握できなくなり、重度化を招くことが懸念されます。

本シンポジウムでは、利用者支援における生活援助の果たす役割を協議しながら、専門性とは何かを考えます。

コーディネーター：蛭江紀雄氏(廿日市市社会福祉協議会 会長)

シンポジスト：内田千恵子氏(日本介護福祉士会 理事・事務局長)

松川 竜也氏(神奈川県介護支援専門員協会 副理事長)

小林 聖子氏(訪問介護事業所ラ・サンテふよう)

全国ホームヘルパー協議会 監事)

- 17:45~19:00 情報交換会

◆2日目 1月11日(木)9:00~12:00

- 9:00~12:00 グループ討議
「ホームヘルパーの専門性を考える」

ホームヘルパーが行う支援は単に家事支援や身体介護を行うだけでなく、支援を通して利用者の身体状況や生活の状況を読み取り、小さな変化も見逃さずに適切な支援を提供することで利用者の自立した生活を支える役割があります。

ここでは、1日目のプログラムを受けて、「ホームヘルパーの専門性とは何か」「専門性を他者に伝えるにはどのようにしたらよいか」等を考えることにより、サービス提供において大切な視点を確認します。

アドバイザー：蛭江紀雄氏(廿日市市社会福祉協議会 会長)

10. 申込締切

定員に達し次第締め切ります。

11. 参加申し込み

「参加申込・宿泊のご案内」をご覧のうえ、別紙申込書により、名鉄観光新霞が関支店にお申込みください。

12. 問合せ先

○内容に関する問い合わせ先

全国社会福祉協議会 地域福祉部 全国ホームヘルパー協議会 担当：志村・宮内
〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル
TEL 03-3581-4655 FAX 03-3581-7858
Eメール：z-chiiki@shakyo.or.jp

○参加申し込み、宿泊等に関する問い合わせ先

名鉄観光サービス株式会社 新霞が関支店 担当：波多野、山辺
〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル LB 階
TEL 03-3595-1121 FAX 03-3595-1119

□ 会場のご案内



- ・地下鉄 銀座線「虎ノ門駅」5番出口より徒歩5分
- ・地下鉄 千代田線／丸の内線／日比谷線 「霞ヶ関駅」A13番出口より徒歩8分
- ・地下鉄 千代田線／丸の内線 「国会議事堂前駅」3番出口より徒歩5分